

2022年6月20日

報道関係各位

認定特定非営利活動法人 経営支援 NPO クラブ

< 20周年を迎えて > 創立記念事業に向け、意気揚がる NPO クラブ 2022年度 通常総会を学士会館で開催



▲東京・千代田区の学士会館

去る5月26日、認定特定非営利活動法人 経営支援 NPO クラブ（東京都千代田区、理事長：助川英治、以下「NPO クラブ」）は、東京・千代田区の学士会館において第20期（2022年3月期）通常総会を開催しました。

本年10月5日に控える創立20周年記念行事へ向け、いよいよカウントダウンが始まったNPOクラブ。当日は、午前中に現在制作中の20周年記念誌に掲載する歴代理事長4人（2代目：荻田 浩、3代目：世良 正、4代目：山口浩利）の対談を実施・取材し、午後の総会には特定支援

会員2社と、4月に友好協定契約を締結した一般社団法人ディレクトフォースから来賓2人を招くなど、例年にない高揚感に包まれました。

総会は出席正会員96名、Web出席者71名の計167名（正会員の71%）と定款で定める定足数に達して成立、13時半から開始されました。議長は助川理事長が務め、第20期事業報告及び決算報告、第21期活動予算の説明・決議、役員を選任等を審議。事業報告では、第20期が初年度となった「2021～2023年度中期活動方針」の進捗状況について、助川理事長が下の3つの**基本方針A～C**に沿って報告しました。要旨は下の通りです。

また、役員を選任では新人7名を含む15名の1～2期のフレッシュな理事が選任され、NPOクラブ初の女性理事が誕生するトピックもありました。



▲上：歴代理事長対談、下：通常総会

基本方針 A. 中小企業への経営支援活動（収益活動）

- 中小企業の事業強化に直結するマッチング等の販路開拓を中心に活動したが、コロナ禍の影響で支援企業数は797社、支援回数は896回と、いずれも前年度とほぼ同じ実績となった。しかし、収益面については新規案件や規模拡大の案件もあり、結果的に前年度実績を上回ることができた。収益貢献した案件は、「福島廃炉関連産業参入企業競争力強化支援事業（廃炉プロジェクト）」、

「わかやま企業力向上販売戦略支援事業に係るマッチング支援業務」、「山口県畜産物の首都圏および近隣県向け販路開拓業務」が挙げられる。

- 重点課題「多角的経営支援の強化」で定める「新技術の事業化支援」などで進展がみられた。タスクチームが精力的に活動する「デジタル技術の活用支援」、研究会組織から案件担当グループに昇格した「ヘルスケア分野」、研究会が発足した「環境分野」等も今後の展開が期待される。

基本方針 B. 社会貢献活動（非収益活動）

- 講演会グループから改称した「次世代育成支援グループ」では、学校・教育機関向け、中小企業向け、地域コミュニティ向けの各チームを組成し、具体的な活動強化策の検討を開始した。コロナの影響で停滞した分の遅れを取り戻す活動を期待している。
- 広報活動はHPやメルマガ等を通じたNPOクラブの情報発信とともに、創立20周年記念事業の諸準備を重点課題に設定した。活動は順調に進行中。
- 「中小企業のSDGs活用支援」では、NPOクラブ活動におけるSDGsの観点での整理が最終段階に入った。今後、その結果を参考に中小企業での活用を支援していく。

基本方針 C. 運営体制の整備・充実

- 変化に対応し、実行できる組織とすべく、使命の明確化、グループ再編成、メンバー再構成の検討を昨年6月から11月に亘って実施。その結果を受け、「NPOクラブ運営規定の改訂」も含めて見直しを実行した。
- 事務局体制の強化（新事務局長就任、女性事務局員4人体制構築）、正会員の勧誘（5月26日現在の会員数233名）、賛助会員・特定支援会員の増強（特定支援会員数50社超、「経営支援NPOクラブ会員制度の概要」改訂）も順調に進捗した。重点課題「会員オリエンテーション・サポート（エルダー制度）」「デジタル環境整備と会員対応力向上」「データベース構築・利活用」についても、各対応チームが試行錯誤を重ねており、近々解決に繋がる新たな提案があると期待。
- 「寄付金募集活動推進」ではプロジェクトチームを発足させ、趣旨や目的、対象者を明確にし、4月よりHPに特設ページを設けた。成果はすぐ表れるわけではないが、NPO法人としての受け皿ができた。募金に際しては、企業・団体・個人との信頼関係の構築が重要な課題となる。

このほか総会では、①20周年記念事業の進捗状況報告、②特定支援会員2社（浜松ヒートテック株式会社、株式会社トップシステム）の挨拶、③ディレクトフォースの紹介、④新入会員（12名、内Web参加1名）の紹介がありました。

①の20周年記念事業の進捗状況は、昨年秋に設けたプロジェクトチームのリーダー・井料敏和理事が担当し、「皆さまへの感謝」と「NPOクラブの更なる発展のために！」を合言葉に、招待者リスト作成、特別講演会の準備、記念誌作成等が順調に進展していることが報告されました。特に特別講演会では講師（第一部：福島つちゆ温泉協同組合理事長・加藤勝一氏、第二部：元日経新聞論説委員 / 亜細亜大学教授・後藤康浩氏 ※詳細は6月5日付リリース参照）も決定し、次世代育成支援グループを中心とする「特別講演会準備班」が当日の運営計画を着々と具体化している状況です。

③のディレクトフォースとは冒頭の通り4月に友好協定契約を結び、当日は段谷芳彦代表理事と近藤重勝理事を招きました。同法人も2002年に企業OBによって設立され、今年で20周年を迎えます。現在会員は約600名を数え、10以上の部会・研究会（環境部会、健康医療研究会等）のほか、



▲ディレクトフォースの段谷代表理事（左）と近藤理事（右）

26の同好会（ワイン同好会、ジャズ同好会等）があるそうです。段谷代表理事は「今後NPOクラブと情報交換をしながら相互補完するなど、様々な形で連携できるのでは」と期待を寄せ、近藤理事は「（NPOクラブの）皆さんの同好会への参加を受け入れたい」と呼びかけました。

総会は定刻通り16時に終了し、懇親会に移る準備の間に臨時理事会（理事15名＋監事3名）を実施。助川理事長が再任となり、副理事長として4名（井料・近藤・酒井・松本）が互選により選任されました。

懇親会は助川理事長のあいさつで開宴し、アトラクションの和太鼓DUO「輝日」（TERUHI）による電子和太鼓演奏が会場を盛り上げました。ユニークなオリジナル楽曲と独自のパフォーマンスで注目を集める輝日。まだ珍しい電子和太鼓によるリズムカルで迫力ある響きは、20周年記念事業に向け会員たちの心を力強く鼓舞し、固く結束させました。

<臨時理事会>



▲新たなメンバーを加え意気揚がる役員たち

新入会員紹介



特定支援会員
挨拶



▲浜松ヒートテック



▲トップシステム

懇親会
&
アトラクション



<本件に関する問い合わせ先>

認定特定非営利活動法人 経営支援 NPO クラブ
広報チーム 担当：井料、宇川 TEL:03-5577-6785
<https://www.ka-npo.com/>



寄付金募集中!

NPOクラブでは
「寄付金募集活動」
を展開中です。
ぜひ、皆さまのお力添えを
お願い致します。